

2021 年度

高校生国際協力実体験プログラム

報 告 書

2021 年（令和 3 年）

第 1 日目 第 1 回目 10 月 17 日

第 1 日目 第 2 回目 10 月 23 日

第 2 日目 12 月 2 日



独立行政法人 国際協力機構
九州センター（JICA九州）

<目 次>

1. はじめに	1
2. 高校生国際協力実体験プログラム報告	
【第1日目 第1回目 10月17日、第2回目 10月23日】	
開 会 式	3
自己紹介・アイスブレイク	4
国際理解ワークショップ	6
青年海外協力隊活動計画作り	8
国際オンライン交流会	11
【第2日目 12月2日】	
協力隊活動計画づくり発表	13
振り返り・閉会式	15
参加校一覧	16
スタッフ一覧	17
3. 添 付 資 料	
・高校生国際協力実体験プログラム募集要項	18
・アンケート集計結果（参加生徒・教員）	22

1. はじめに

【事業の結果概要】

1996年よりJICA九州は、九州地区在住の高校生を対象に、開発途上国への理解を深めることを目的とした「高校生国際協力実体験プログラム」を実施しており、今回で25回目を迎えた。当初JICA九州での集合型研修を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大によりJICA九州の位置する北九州市にまん延防止等重点措置が適用されたことを受け、オンライン会議システムを利用して実施する方法へと変更した。また、実施予定日であった8月17日、18日に九州に災害級の大雨が予測されたことを受け、参加者の安全確保のため実施を延期した。その後の調整により、第1日目は10月17日（3校）と10月23日（4校）の2回に分けて実施、第2日目は12月2日に全参加校合同で実施することとした。

本年度は九州7県35校からの応募があり、応募書類に関しての選考を行い、7校を合格とした。結果、計33名（生徒26名、教員7名）が本プログラムに参加した（参加校詳細はP16参照）。

事前学習として、各県国際協力推進員が参加校を訪れ、JICA事業の紹介を行った。また参加する生徒達は、プログラム参加前の「国際協力」に関するイメージをウェビング^{*1}により記述した。

プログラム当日は、対面での活動とオンラインでの活動を組み合わせて実施された。具体的には、各県の参加者と国際協力推進員は各県内の会場に集まり、九州内のそれぞれの会場をオンライン会議システムで繋ぐことで、全体の進行や参加者間の意見交換等はオンライン上で行いつつ、各県の会場では対面での活動も行うという方法をとった。第1日目の1回目は、佐賀県、大分県、鹿児島県の参加者を対象に10月17日に行われた。アイスブレイキングで緊張をほぐした後、SDGsについて考える国際理解ワークショップ「トンガの暮らしから見るSDGs～トンガ絵本‘Ofa atuを通して～」、青年海外協力隊活動計画作り（元青年海外協力隊員による体験談を含む）、JICA研修員受入事業により各国から九州に来ている研修員との交流を行なった。第1日目の2回目は、福岡県、長崎県、熊本県、宮崎県の参加者を対象に1回目と同様の内容で10月23日に行われた。第2日目は12月2日に行われ、プログラムの内容は活動計画発表に対する質疑応答やプログラム全体の振り返り等であった。また、参加者は、第1日目と第2日目の間に、作成した青年海外協力隊活動計画を発表する様子を録画してYouTubeで限定公開し他校の発表を視聴した上で第2日目に参加するよう求められた。

生徒・教員に対するアンケートの結果からは、プログラムの内容に対する高い満足度が伺える一方、集合型研修でなかったことによる参加者間のコミュニケーションの取りにくさやマイクやスピーカーなど各会場の機器の違いによる聞き取りにくさなど、今後検討すべき課題も挙げられた。

プログラム全体を通しての参加生徒の評価は以下の通りである。

【アンケート結果】

・2日間を通してプログラムの内容の満足度は何%でしたか（2日目参加生徒23名中）

満足度（%）	100以上	90～99	80～89	80未満
人数	12人	4人	3人	4人

三分の二以上の参加者が90%以上の満足度を示しており、今回のプログラム内容が充実したものであり、参加者の期待に応えられていたことが伺える。

満足度が100%以上の参加者の意見としては、「プログラムを通して国際協力への理解が深まった」「メンバー4人で協力して、普段であれば考えないことを一生懸命考えてすごく視野が広がった」「各プログラムを通して自分の足りていない能力を見つけることができた」というように国際協力についての理解の深まりや活動を通しての自己の成長を挙げているものや、「オンラインだったけど研修員の方とも交流できたし、他の県の人たちとも話せて楽しかった」「全ての高校と交流できて楽しかった」というように参加者間での意見交換や交流に対する充実感を挙げているものがみられた。

一方満足度が100%ではない理由としては、「対面で話して仲良くなりたかった」「仕方のないことだけど、実際に対面で交流したかった」「zoomになったことでコミュニケーションがほとんどとれなかったことがほんとに残念なところだった」「相手の名前も良くわからないまま終わったのでさみしく感じた」というオンライン会議システムを使用した実施方法に起因する意見が挙げられた。今後オンラインで実施する場合には、オンラインの特性をより踏まえた上でプログラム内容や進行の仕方を検討することの必要性を感じさせられる意見である。また「受験期間と丸かぶりだった」という意見もあり、今回のように実施が延期となる際には実施時期についても配慮することで、より参加者が参加しやすいプログラムになると考えられる。

参加教員からの要望や改善点としては、生徒同様に対面での実施や他校生徒との関わりの充実を望む声や、このプログラムの県レベルでの開催を提案する意見等が挙げられた。

次項より、各プログラムの概要と参加者からの意見を記している。今後も引き続きオンライン開催の可能性もあるため、今回の反省を踏まえながら、来年度以降より良いプログラムを実施していきたい。

※1 「ウェビング」

一つの題材・単語（本プログラムの場合は「国際協力」）を中心として、その題材から連想できるものを書き出していき、周りに網の目のように線でつなげていく方法。グループ内での各個人の意見を共有し、課題抽出や課題解決などの計画策定に用いられる手法。

2. 高校生国際協力実体験プログラム報告

【プログラム名】

開 会 式

担当：鬼丸 武士（福岡県国際協力推進員）

田代 芽衣（宮崎県国際協力推進員）

(1) ね ら い

- ・ プログラムの開会をもって参加への意識を高める。
- ・ プログラムの目的および意義を確認することでより効果的なプログラムを目指す。
- ・ プログラム運営スタッフを紹介し、青年海外協力隊経験者の存在を認識する。

(2) 概 要

「高校生国際協力実体験プログラム 2021」を開催するにあたり、JICA 九州センター所長の吉成安恵が開会の挨拶を行った。

JICA が実施している国際協力事業についての説明を行った後、本プログラムの意義、プログラム中だけでなく、事後もプログラムで得た気づきや学びを深めてほしいという参加者への期待を述べた。開会挨拶後、2日間のプログラムをサポートするスタッフ（九州各県の国際協力推進員、(特活)九州海外協力協会職員）が挨拶・自己紹介を行った。



(開会式の様子・PC スクリーンショット)



(開会式の様子・会場撮影)

【プログラム名】

自己紹介・アイスブレイク

担当：戸崎 千尋（長崎県国際協力推進員）

飯屋 慶一（鹿児島県国際協力推進員）

(1) ねらい

- ・ プログラムの最初に参加者同士の交流を深め、お互いを知る。
- ・ 積極的参加の姿勢を自覚してもらう。
- ・ これから実施するプログラムへの緊張をほぐし、自発的に行動するきっかけとなる。

(2) 概要

プログラム全体の導入として、ラジオ体操、学校紹介や自己紹介、アイスブレイクを行った。まず初めに、緊張をほぐす目的でラジオ体操を実施した。誰にでもなじみのあるラジオ体操だが、今回は協力隊が実際に作ったアラビア語のラジオ体操（動画）を見ながら体操をし、今日1日のプログラムをスタートさせた。

学校紹介は、事前学習日から当日までに各校それぞれで作成いただき、模造紙やパワーポイントを使用しながら工夫して発表した。まず、各校一人ひとりの自己紹介をし、そのまま学校紹介を合計2分間という限られた時間で行い、各校の特色や、イベント、地域の紹介を行った。どの学校も、とても充実した内容の新聞が出来上がっており、オンラインでも伝わる工夫もなされていた。

次にアイスブレイクとして、「○○と言えば…？」ゲームを行った。○○と聞いてイメージするポーズをとり、参加者の想像力を働かせるゲームである。参加者は目を瞑った状態で、「ご飯と言えば…？日本と言えば…？」というお題に対し、それぞれがイメージするポーズをとった。そして、司会の掛け声で目を開け、参加校の学生や先生、推進員がどんなポーズをしているか確認し合った。同じポーズの人もいれば、全く違うポーズをとる人もいた。最後に出した「国際協力と言えば…？」というお題では、みんな真剣に考え、悩みながらもポーズをとった。それぞれのポーズを確認し合い、九州・高校生などの共通点もあるが、物に対する見方・捉え方・価値観の違いについて考える時間とした。

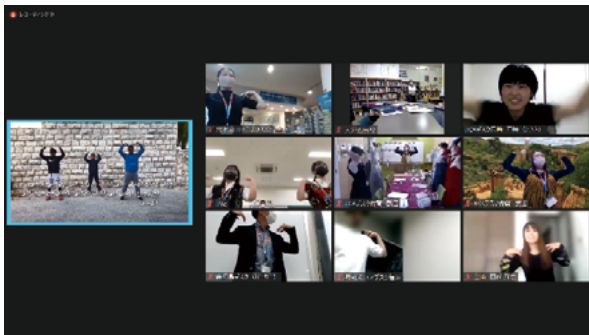
(3) 参加者からの声

【生徒】

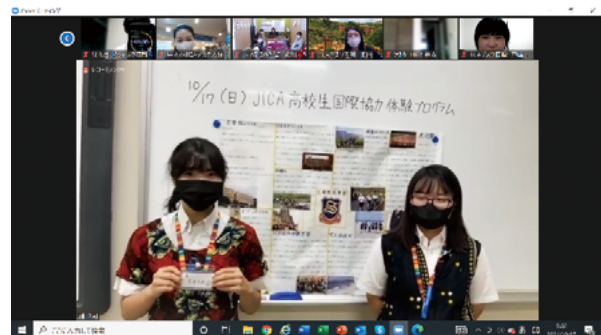
- ・ お互いのことが良く知れて良かった。緊張がほぐれて、リラックスした状態でできた。
- ・ やや緊張気味で挑んだが、推進員の明るい雰囲気や元気ハツラツな姿勢で楽しく始めることができた。
- ・ ラジオ体操が楽しかった。
- ・ 学校新聞の発表で、相手に伝えたい内容を出来るだけ簡潔にまとめた発表が難しかった。他校もいろいろなアイデアで新聞を作っていて、学ぶ部分がたくさんあった。

【教 員】

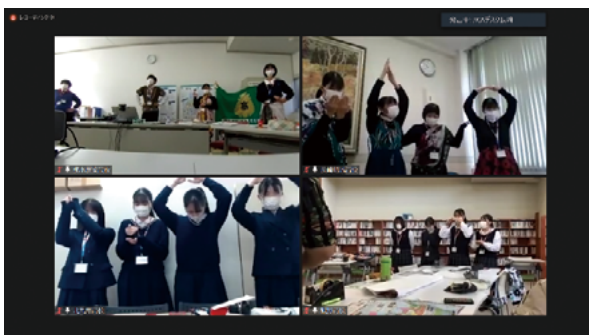
- ・ とても楽しく、面白い内容だった。ラジオ体操も楽しかった。他校の生徒同士が関われる機会があったらよかった。
- ・ 世界でも違う言語でラジオ体操をしていて、その普及に協力隊員が貢献されていると学べて良かった。
- ・ 学校紹介の時間をもう少し確保できたら良かった。プログラム全体の流れを説明してもらえると参加生徒も流れの確認ができ、見通しを持つことができたと思う。
- ・ アイスブレイクとしての役割を全く果たしていなかった。オンラインのため、他県の生徒と直接会話できる場面があるとよかった。せっかく1日を共にしながら、他県の生徒の人柄どころか名前さえもよくわからないまま終えてしまったのは非常にもったいなかった。



(アラビア語ラジオ体操)



(学校紹介)



(国際協力と言えば…?というお題でポーズをとる参加者)

【プログラム名】

国際理解ワークショップ

「トンガの暮らしから見る SDGs ～トンガ絵本 'Ofa atu を通して～」

担当：仮屋 慶一（鹿児島県国際協力推進員）

尾上 香織（熊本県国際協力推進員）

(1) ねらい

- ・ トンガ絵本「'Ofa atu」を通して、トンガの暮らしから、SDGs 達成に向けたヒントを見つける。
- ・ 自分ができる身近なアクションを考え、今後の活動に繋げる。

(2) 概要

青年海外協力隊トンガ OB によって制作された絵本、「'Ofa atu のぞいてみよう、トンガの暮らし」を使用し、SDGs の取組について学び、気づきを深めるワークショップを行った。導入部分では、JICA 地球ひろば作成の SDGs ラップ動画(※)を見せたり、東京オリンピック・パラリンピックでの SDGs の取組を紹介したりすることで、SDGs の概要と実用事例を把握するよう促した。ワークでは、熊本県の尾上推進員（トンガ OB で絵本制作者の一人）からのトンガ紹介や、絵本の朗読を各県交代で行い、それらをもとに、SDGs と関連する事項を見つける作業を行った。懸念点として、「～は達成できていない」のようなネガティブな指摘が多いのではというものがあつたが、様々な視点から見たトンガの魅力について述べられている県が多くみられた。

分析後は、それらの内容と、日本が SDGs において抱えている課題を踏まえて、日本の SDGs 達成のためにできる取組を考えていった。各県 2 分ずつの発表では、「トンガの暮らしを見るとお祈りやお昼寝、運動など、みんなで取り組んでいるシーンがとても印象的だった。日本でも取り入れたいが、そのためにワークライフバランスの見直しが必要」のような意見が挙がり、トンガの魅力を日本で取り入れるためにどのようにするか質疑応答の時間も合わせて議論がなされた。

最後に、尾上推進員から絵本制作者としての想いや、トンガの魅力、抱える課題、SDGs に取組む中で大切にしてほしいこと等のメッセージを頂き、本ワークショップを終えた。

※「ラップで SDGs を楽しく学ぼう」<https://m.youtube.com/watch?v=tWneKAdu9I>

(3) 参加者からの声

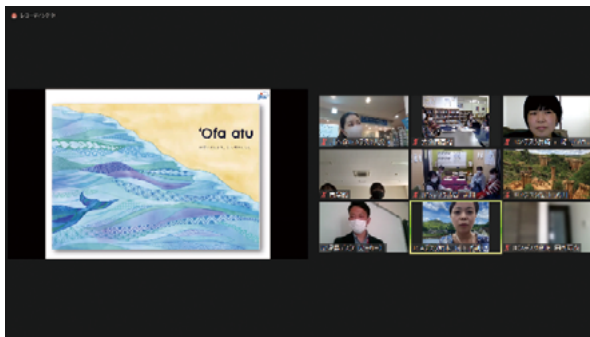
【生徒】

- ・ 「世界はお互い様でできている」という言葉に納得した。日本が世界へどのように貢献しているのか気になった。
- ・ 色んな視点からトンガをみることができ、普段の何気ない風景の中にも SDGs が関連していることが分かった。

- ・ 日本にはないトンガの良いところを知ることができた。
- ・ トンガの絵本を読み、自給自足の生活やみんなが仲がよいところが良いなと感じた。
- ・ どのように工夫して日本で取り組むかという点を上手にまとめるのが難しかった。

【教 員】

- ・ ワークにおいては、実際の写真や動画があると、より想像しやすかったように感じた。
- ・ ヒントの出し方や、SDGs 付箋紙は自身の公民の授業でも活用できると思った。
- ・ 絵本について、事前に読むことができていると、より発展的な意見が出たように思う。事前学習から期間が空いたため、その時期を活用した方が良かったように思う。
- ・ 使用された動画を学校の授業でも活用できると感じたための出典を教えてください。
- ・ 隊員が作成した絵本でのワークは新鮮だった。生徒は日本での暮らしとの違いをワークを通して落とし込む過程を楽しんでいるように感じた。



(尾上推進員よりトンガと絵本の紹介)



(ワークに取り組む様子)



(発表の様子)



(発表資料一部)

【プログラム名】

青年海外協力隊活動計画作り

担当：井本 望（大分県国際協力推進員）

(1) ねらい

青年海外協力隊になりきり、村をより良くするために村人を巻き込んだ活動計画を立て、現地の人々にとって本当に必要な支援とは何かを考える。

(2) 概要

<設定>

架空のウエストティモール国バリボ村の村役場へコミュニティ開発隊員として派遣された設定で、2年間の活動計画を作成した。活動内容の要請は「現地の伝統や文化を尊重しながら、共により良い村づくりに協力すること」であるが、まずは、派遣された村の状況を整理・分析し、地域の良い点・課題点を見出した。それらをもとに活動計画を作成する上での考慮事項として、「実現可能性」「妥当性」「持続性」「独自性」を挙げ、4つの観点が計画発表時の評価となることを伝えた。

<形態>

グループ活動（生徒：2～4名×7県7グループ ※参加校毎）

<内容>

1) 導入

- ・ プログラムの全体説明
- ・ 「青年海外協力隊とは」「職種の紹介」「活動計画について」「発表ルール」「評価項目」

2) 村の概要把握

- ・ 地図上で村の位置を確認
- ・ 写真から読み取れる村の様子をもとに、気づきをグループ内で洗い出す（フォトランゲージ）

3) 青年海外協力隊員の活動事例紹介

- ・ 体験談発表：JICA 九州・国内協力員 岩瀬 さくら（派遣国：ペルー）

4) 村の状況分析

- ・ 村の概要シートの読み込み
- ・ 村の良い点・課題点を個人・グループ内で洗い出す

5) 課題点の解決に向けた取り組みの優先順位づけ

- ・ ダイヤモンドランキングを用いて、グループ内で課題事項を優先順位化
- ・ 課題点の解決のためのアイデア出し
- ・ 良い点をさらに良くするためのアイデア出し

6) 活動計画作成

- ・ 活動の「対象者」「協力者」「活動内容」の仮決め
- ・ 「村の現状（課題）」「目指す村の将来のイメージ」を意識した、活動計画の骨組み作り

7) JICA 在外事務所（企画調査員）の配置

青年海外協力隊の良き相談相手となり、個々のボランティア業務を支援する企画調査員役を配置した。JICA 九州の職員 2 名（東・藤井）の協力を得て、活動計画作成中の質疑に対応した。

(3) 参加者からの声

【生徒】

- ・ 自分たちが実際に協力隊員になったつもりで考えるっていうのがとても楽しかった。参加メンバーと一緒に話しながら考えるのがとても良かった。
- ・ 私は青年海外協力隊に興味があったので、実際の活動の様子を詳しく知ることができ、より憧れが高まりました。国際協力と一言言っても様々な考え方があり、奥が深いなと思いました。
- ・ 実際に計画を立ててみると、想像以上に多方面への配慮が必要となってきて、とても大変だった。また、現地に行ってみないと分からないであろうことも多くて、多角的に見えない分からないことをイメージすることの難しさを痛感した。
- ・ 村の課題を解決するにはどういった工夫がいるのか、そして、どうしたら村人の人たちに納得してもらえるのかを考えるのが難しかったです。思ったように話し合いが進まなかったのもっと話し合っていかなければならないなと思いました。

【教員】

- ・ 活動に関する情報確認に始まり、体験談、情報精査、計画作成と、多くの活動を短時間で行うことで、生徒は適度なプレッシャーを受けながら作業することができ、自身が備えている潜在能力の活性化に繋がったように思う。プレストから情報の再集結までの一連の活動を通して、多くのことを学べる良い機会であった。
- ・ ペルーの活動報告により、実際の青年海外協力隊について理解を深めることができた。ウエストティモールの現地員さんへの質問コーナーは、とてもいいアイデアであったと思います。
- ・ 写真から問題発見は私自身も生徒達に実践させているのでわかりやすかった。協力隊の体験談、計画作りと生徒達を誘うにはスムーズな流れで良かった。ダイヤモンドランキングはつながりと優先度がわかりやすくなるので参考になりました。正解のない問題を解決のために知恵を出し合って協働しながら進めるワークは、生徒は頭をフル回転しながら行っていた。今必要とされる教育がここにはあると感じた。計画発表評価シートは参考になります。



(村の写真をもとにフォトランゲージ)



(元協力隊員による体験談を聞く)



(村の良い点・課題点の洗い出し)



(活動計画作り開始)

【プログラム名】

国際オンライン交流会

担当：尾上 香織（熊本県国際協力推進員）

戸崎 千尋（長崎県国際協力推進員）

(1) ねらい

- ・ 研修員との交流を通して異文化への理解を深める。
- ・ 十分に言葉が通じない相手とのコミュニケーションを体験し、コミュニケーション能力を高める。
- ・ 相手を理解しようとすることの大切さや意義に気づき、日常生活へも通じることに気付く。
- ・ 地域の魅力を紹介することにより自国や地元のよさを再発見する。
- ・ 各県研修員と交流することにより、本プログラム終了後も各県での交流につなげる。

(2) 概要

九州内の JICA 長期研修員 4 名とのオンラインでの交流会。参加研修員と研修員の出身国についてクイズ形式で紹介した後、各県ごとに分かれて研修員 1 名と共に、自己紹介や質疑応答を行った。また、全体で参加高校ごとに準備してきた各県の名所等を写真で紹介するなど英語での交流を行った。

(3) 参加者からの声

【生徒】

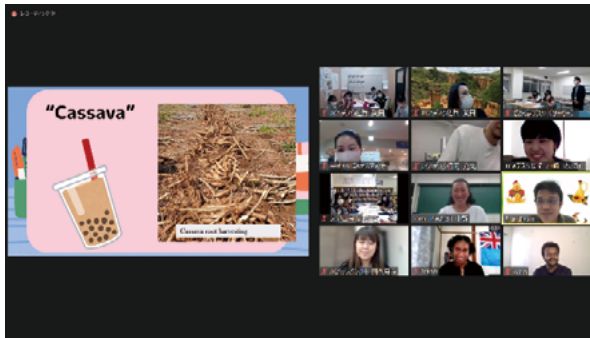
- ・ 英語の必要性を強く感じ、勉強せねばという気持ちになった。
- ・ 進んで海外の方に質問ができていい経験になった。
- ・ オンラインでも緊張したので、将来直接対面で話せるようがんばりたい。
- ・ 自分たちの英語でも聞き取ってくれる相手の方が、とても優しくて面白く話も合って嬉しかった。
- ・ 最初は英語をちゃんと聞き取れるかな、会話できるかなと心配していたが、質問も何となくだが理解でき、自分たちへの質問にも答えることができてよかった。

【教員】

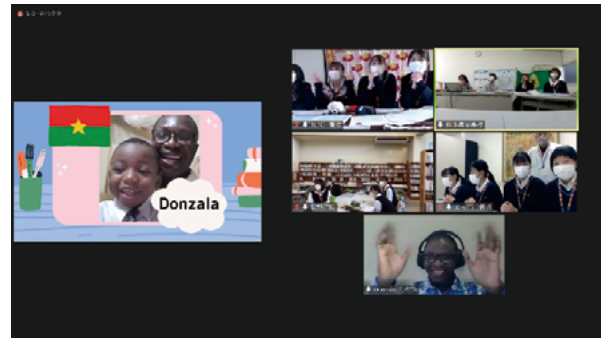
- ・ 生徒たちはこの交流会を最も楽しみにしていて、事前に「我が県自慢」の発表練習もよく頑張っていたのを見ているだけに、少々今回の交流に物足りなさも感じた。単に発表をするだけでなく、その発表を聞いて研修員の方々がその県に対してどのような印象をもったのか等の感想を言ったり、もっと知りたいことを質問したりという場面があっても良かったのかと思う。また、ブレイクアウトルームでの交流も時間が少ないように感じた。初対面のしかも外国人ということで生徒もなかなか積極的には話ができず、一問一答のような形での交流しかできないまま終わってしまったのが残念。もう少し時間があれば生徒たちも研修員の方々と打ち解けて話ができ

たと思うが、それができず研修員の方々に対しても申し訳なく思った。

- ・ 研修生と英語でやりとりをしていたが、事前に準備していなかった内容でもきちんと交流できている姿を見て、成長を感じられた。この交流を通して、伝わる喜びを体感できたので、これからの生きる道でも外国語を使ったコミュニケーションにおいて大切なことは、言語だけではないということを忘れないと思われる時間であった。



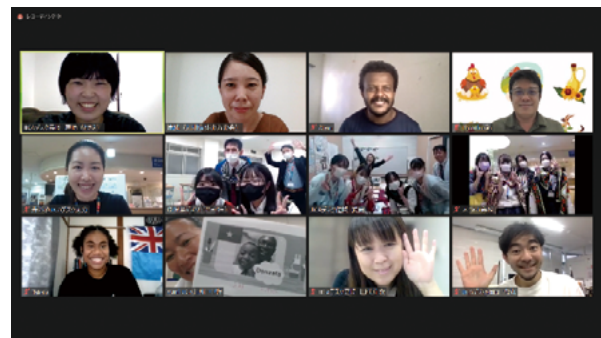
(長期研修員をクイズ形式で紹介)



(長期研修員に一同興味津々！)



(ブレイクアウトルームでの質問タイム)



(最後にみんなで集合写真)

【プログラム名】

協力隊活動計画づくり発表

担当：武田 七重（佐賀県国際協力推進員）

(1) ねらい

- ・ 大勢の人に対し発表する経験を通じ、自分の考えを伝えること、人の話を聞くことの大切さに気付く。
- ・ 他のグループの発表や意見を聞くことで自分にはない視点を知り、国際協力に対する理解を深める。

(2) 概要

第1日目で行った協力隊活動計画作りを、各校発表動画として2週間をかけて作成（10月17日に第1日目を実施した高校は11月7日、10月23日に第一日目実施高校は11月13日締切りとして提出）。11月17日から12月2日まで全参加校分の発表動画を限定公開YouTubeにアップロード。そのアップロードされた発表動画に対し、各自評価シートを元に評価を行い、第2日目の当プログラムに臨んだ。

プログラムでは、各自他県高校の発表内容へ質問を考えてきてもらい、質疑応答の時間から開始。その後、投票（各県生徒、指導教諭、各県 JICA デスク、JICA 九州職員）、結果発表の後、講評を行った。

(3) 参加者からの声

【生徒】

- ・ 自分たちの学校では出なかった意見が多く納得できるものが多くあった。手書きのスライドなどもあって凄いと感じた。
- ・ バリボ村の現状を考慮して計画を立てる中で1つの事を解決しても、他に問題が見えてくることもあり、問題を解決するのは難しかった。しかし、最終的には納得のいく形で計画を立てる事が出来たように思う。
- ・ 1日目のプログラムも楽しかったのですが、やはり計画発表では皆の力を合わせて時間をかけて発表したのが達成感がありました。また、他校の計画を YouTube で視聴して質問を考えるという試みが印象的でした。今まで自分の事や、身の回りの事しか考えた事が無かったので、全く違う場所に住む人の生活を改善する事を考えたのは、世界を見るきっかけにもつながったと感じました。
- ・ ハウリングや声が聞こえないため質疑応答が満足できなかった。

【教員】

- ・ どの学校もクオリティの高い発表だった。同じ村だったが、それぞれの学校からのアプローチが大変興味深く感じた。生徒たちも課題解決能力を養うことが出来たように思う。
- ・ 各県工夫を凝らした発表動画を作成しており、大変楽しく視聴する事が出来ました。

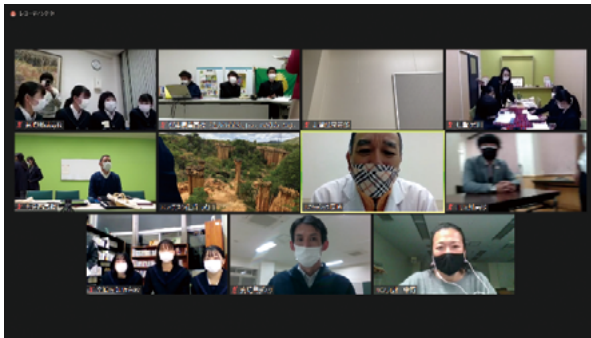
ただ、高校生が採点をするとうしても採点基準に沿わず、何か特別な事をしてい
る発表や画像に写るプレゼンテーション資料の出来栄の良い発表が高得点になっ
てしまう様子。相互投票の結果を参考にしつつも、最終的には実際に協力隊員とし
て活動した推進員の方々が合議して最優秀校を決定し、後日発表するという形でも
良かったかと思います。



(プログラム開始時)



(質疑応答の様子)



(各校指導教員からのコメント時の様子)

【プログラム名】

振り返り・閉会式

担当：田代 芽衣（宮崎県国際協力推進員）

鬼丸 武士（福岡県国際協力推進員）

(1) ねらい

- ・ 2日間のプログラムで学んだことの振り返り、気持ちの共有を他県の高校生と行う。
- ・ 閉会式は JICA 九州・守屋次長より閉会あいさつをもらい、本プログラムの締めをする。

(2) 概要

振り返りでは、全2回に分けてブレイクアウトルームを使用した複数県での交流を行った。第1回目は「印象的だったこと、新しい学び」について話してもらい、第2回目では「今後に向けての目標」について話してもらった。

閉会式では閉会あいさつと記念撮影を行い、2日間の締めくくりを行った。

(3) 参加者からの声

【生徒】

- ・ 学んだことをいっぱい振り返れてよかったです！
- ・ 他の高校生の方と交流して少しだけ自分たちの高校について知ってもらえることができたんじゃないかと思います。

【教員】

- ・ お互い初めて顔を合わせる者同士なので、遠慮があってなかなか思うようには話せなかったようです。リモートなのでやむを得ないですね。対面であればもっと色々な話ができていると思います。



(振り返り・意見交換する参加者)



(閉会式・集合写真)

2021年度 高校生国際協力実体験プログラム 参加校一覧

<第1日目：10月17日、10月23日 第2日目：12月2日

生徒26名、教員7名 計33名>

	県	立	高等学校名	生徒	1年	2年	3年	男	女	教員
1	福岡	県立	北九州	4			4		4	1
2	佐賀	県立	佐賀西	4	2	2			4	1
3	長崎	県立	長崎明誠	4			4		4	1
4	熊本	県立	熊本農業	4			4	2	2	1
5	大分	県立	大分西	4		4			4	1
6	宮崎	県立	飯野	4	3	1			4	1
7	鹿児島	私立	志学館高等部	2	2				2	1
小計(人)				26	7	7	12	2	24	7

プログラム実施スタッフ一覧

	所属	名前	任国	職種
1	福岡県国際協力推進員	鬼丸 武士	中東・ヨルダン	理学療法士
2	佐賀県国際協力推進員	武田 七重	アフリカ・タンザニア	看護師
3	長崎県国際協力推進員	戸崎 千尋	アジア・スリランカ	高齢者介護
4	熊本県国際協力推進員	尾上 香織	大洋州・トンガ	音楽
5	大分県国際協力推進員	井本 望	中南米・セントルシア	青少年活動
6	宮崎県国際協力推進員	田代 芽衣	東南アジア・ラオス	看護師
7	鹿児島県国際協力推進員	仮屋 慶一	アジア・モルディブ	体育
8	(特活)九州海外協力協会	浦越 未来	中南米・ブラジル	日系日本語 学校教師

3. 添付資料

・2021年度高校生国際協力実体験プログラム募集要項

International Cooperation

「この夏、キミは JICA 海外協力隊になる！」

JICA九州

高校生国際協力実体験プログラム

2021

高校生だけの限定プログラム

開催日
8月17日(火)
18日(水)

応募締切
6月14日(月)

SUMMER VACATION

& DISCOVERY

新型コロナウイルス対策の状況に応じて、参加上限人数や実施方法がオンラインに変更になる可能性があります。最新の情報についてはJICA九州のホームページにてご確認下さい。
<https://www.jica.go.jp/kyushu/enterprise/kaiatsu/jittaiiken/index.html>

主催：独立行政法人 国際協力機構 九州センター
後援：福岡県教育委員会 佐賀県教育委員会 長崎県教育委員会 熊本県教育委員会
(予定) 大分県教育委員会 宮崎県教育委員会 鹿児島県教育委員会
福岡市教育委員会 北九州市教育委員会 熊本市教育委員会

独立行政法人 国際協力機構 



世界・仲間・

「JICA九州 高校生国際協力実体験プログラム」

事前に知っておこう！



JICA(ジャイカ)とは？

JICA(国際協力機構)は、日本政府の開発途上国へのODA(政府開発援助)を行う組織です。

JICA 海外協力隊って？

JICAが実施する海外ボランティア派遣制度です。開発途上国で現地の人たちと生活を共にし、貧困や環境など、その国の抱える課題に取り組みます。

JICA 九州とは？

JICAの九州における国際協力の拠点です。開発途上国から日本の技術を学びに来た人たちのための研修施設もあります。

事前学習 Start

●各校にて実施します

「国際協力」 ってなんだらう？

「実体験プログラム」への参加前に、各地の国際協力推進員と一緒に国際協力について考えてみよう。

プログラム

・ワークショップ・



・アイスブレイク・



・計画作り・



Support staff

JICAボランティア経験者である各デスクの国際協力推進員たちが、プログラム全体をサポートします。

JICAデスク 福岡

(公財)福岡よかトピア国際交流財団内
福岡市博多区店屋町4-1 福岡市国際会館1F
TEL092-262-1714
jicadpd-desk-fukuokashi@jica.go.jp

JICAデスク 佐賀

(公財)佐賀県国際交流協会内
佐賀市白山2丁目1番12号 佐賀商エビル1階
TEL0952-25-7921
jicadpd-desk-sagaken@jica.go.jp

JICAデスク 長崎

(公財)長崎県国際交流協会内
長崎市出島町2-11 出島交流会館1階
TEL095-823-3931
jicadpd-desk-nagasaki@jica.go.jp

JICAデスク 大分

(公財)おおいた国際交流プラザ内
大分市高砂町2-33 iichiko総合文化センター
TEL097-533-4021
jicadpd-desk-oitaken@jica.go.jp

JICAデスク 熊本

(一財)熊本市国際交流会館内
熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館2F
TEL096-359-2130
jicadpd-desk-kumamotoshi@jica.go.jp

JICAデスク 宮崎

(公財)宮崎県国際交流協会内
宮崎市橋通東4-8-1 カリーノ宮崎地下1階
TEL0985-32-8457
jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp

JICAデスク 鹿児島

(公財)鹿児島県国際交流協会内
鹿児島市山下町14-50
かごしま県民交流センター1F
TEL099-221-6624
jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp

自分、発見！ 九州各地の高校生たちと世界を感じる2日間！

プログラムは九州各県から集まった仲間が1泊2日を共にし、世界と自分とのつながりを体感する、高校生のための国際協力入門講座です。

1 day

多様な文化に
触れる

九州各地から集まった仲間たちと親睦を深め、JICA海外協力隊経験者との交流や世界の料理を楽しもう！

Time Table (予定)

- 10:00～ 開会式 (10分)
- 10:10～ アイスブレイク、自己紹介 (40分)
- 10:50～ 移動
- 11:00～ ワークショップ (90分)
- 12:30～13:30 昼休み
- 13:30～ 計画作り (210分)
- 17:00～18:00 チェックイン
- 18:00～ 夕食・交流会 (120分)
- 20:00 終了



2 day

JICA
海外協力隊になる

JICA海外協力隊になりきって、自分に何ができるか考えて発表してみよう。現地の人たちに本当に必要とされる支援って何だろう？

Time Table (予定)

- 9:30～ 計画作り・グループ内まとめ (150分)
- 12:00～13:00 昼休み
- 13:00～ 計画発表 (120分)
- 15:00～ 振り返り (30分)
- 15:30～ 閉会式・写真撮影 (20分)
- 15:40 終了

※プログラムの内容や時間は変更する場合があります。



・計画発表・

事後学習
Goal

●各校にて実施します

自分の変化を
伝えよう！

「実体験プログラム」で感じたこと、考えたことを表現し、周りの人に伝えよう。



楽しい
思い出
作る！



SUMMER VACATION & DISCOVERY

JICA九州 高校生国際協力 実体験プログラム

- （グローバルな人材を育てる参加型の「学び」）
- 〔国際理解〕 世界の状況や国際協力の現状に気づき、理解を深める
 - 〔SDGsへの理解〕 ワークショップを通じ、理解を深め、自分たちが身近にできることを考える
 - 〔交流〕 参加者や協力隊経験者との交流を通じ、国際協力にどう関わることができるかを考える
 - 〔進路/生き方〕 様々な生き方・経験に触れることで自分自身を見つめなおし、将来の進路選択に役立てる

日程

8月17日 火・18日 水 ※開催は1回のみ

・プログラムの流れ・

事前学習 7～8月に国際協力推進員が各校を訪問し事前学習を実施します。日程など詳細については各地の国際協力推進員にご相談ください。

本プログラム 2日間の全日程にご参加ください。

事後学習 例年の参加校はプログラム終了後、学校行事や各地の国際交流・国際協力イベントなどで、本プログラムの成果を発表しています。また、参加した経験を活かした「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」への応募も推奨しています。詳細は各地の国際協力推進員にご相談ください。

参加条件

- 国際理解教育・持続可能な開発のための教育(ESD)・キャリア教育に積極的に取り組んでいる学校、又は今後取り組む意欲がある学校。
- 学校長より参加の許可が得られること。
- 生徒の保護者より参加への同意が得られること。
- 生徒が過去に本プログラムに参加していないこと。
- 教員・生徒とも、事前・事後学習を含み、全プログラムに参加可能なこと。選考後の参加者交代は不可。

募集数

- 九州7県から最大7校
- ※1校につき、生徒2～4名(+教員1名)での参加を基本とします。参加希望校が定数を超えた場合は、応募書類、県のバランス、新規希望校の優先等を考慮して選考します。
- 最少開催人数:14名

・留意事項・

- プログラム参加費自体は無料となります。
- 昼食および夕食代は各自でご負担ください。
- 学校所在地からJICA九州までの往復交通費、宿泊費はJICA九州が負担します。
- お車での来場はできません。公共交通機関をご利用ください。
- プログラムへの参加に当たり、参加者全員、国内旅行傷害保険にご加入いただきます。同費用はJICA九州が負担します。万一事故が生じた場合、保険の給付範囲内で補償いたします。
- 宿泊先はJICA九州宿泊棟となります。
- 動きやすい衣服での参加をお願いします。
- 個人都合(部活等)によるキャンセルはご遠慮ください。
- 筆記用具、健康保険証の写し、および緊急時の連絡先をご持参ください。

会場

独立行政法人 国際協力機構 九州センター(JICA九州)

福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1 (JR鹿児島本線八幡駅下車徒歩12分)
TEL093-671-6311(代表) www.jica.go.jp/kyushu



！ 新型コロナウイルス対策の状況に応じて、参加上限人数や実施方法がオンラインに変更になる可能性がございます。最新の情報についてはJICA九州のホームページにてご確認ください。

<https://www.jica.go.jp/kyushu/enterprise/kaihatsu/jittalken/index.html>

応募方法

参加申込書をJICA九州ホームページよりダウンロードし、必要事項をご記入の上、以下の送付先まで郵送ください。
[<https://www.jica.go.jp/kyushu/enterprise/kaihatsu/jittalken/index.html>]

送付先

〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1 JICA九州内 (特活)九州海外協力協会

応募締切 2021年6月14日 月 [必着] ▶ 6月30日 水 迄に結果通知

2019年度参加校実績

福岡県	明治学園高等学校	熊本県	高森高等学校
佐賀県	唐津西高等学校	宮崎県	宮崎学園高等学校
長崎県	鳴滝高等学校	鹿児島県	鹿児島純心女子高等学校、鳳凰高等学校

(学校用)

JICA 九州高校生国際協力実体験プログラム参加申込書

参加日程	8/17~8/18		
ふりがな			
高等学校名	立	高等学校	
学校住所	〒		
	TEL		FAX

引率教師	ふりがな		担当		性別	男女
	氏名		教科			
	現住所	〒				
		TEL		FAX		
E-Mail			携帯			
生徒1	ふりがな 氏名		TEL		学年	年生 性別 男/女
	現住所	〒				
生徒2	ふりがな 氏名		TEL		学年	年生 性別 男/女
	現住所	〒				
生徒3	ふりがな 氏名		TEL		学年	年生 性別 男/女
	現住所	〒				
生徒4	ふりがな 氏名		TEL		学年	年生 性別 男/女
	現住所	〒				

学校所在地から JICA 九州までの 交通経路	(バスを使用される場合は、運賃と会社名をご記入ください)					
	学校最寄 ()線()駅、または()バス会社					
	()バス停→					
→JICA 九州						

※公共交通機関をご利用ください

上記の者が、JICA 九州の「高校生国際協力実体験プログラム」に参加することを承認します。			
高等学校名		日時	2021年 月 日
学校長		印	

【個人情報の取り扱いについて】

参加のお申し込みについて入手しました個人情報は、本プログラム実施に係る業務のみに使用いたします。また、当該情報は当機構にて厳重に管理し、正当な理由なく第三者への開示、譲渡及び貸与することは一切ありません。

送付先: 〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野 2-2-1 JICA 九州内
(特活)九州海外協力協会

参加申込書

独立行政法人 国際協力機構

九州センター 所長 殿

独立行政法人国際協力機構 九州センター主催「高校生国際協力実体験プログラム」の募集要項の内容について承諾し、同プログラムに参加を申し込みます。

併せて、引率に当たっては、①九州センター在館期間を通して消灯・点呼を初め生徒の生活指導に当たること、②生徒のプログラムや JICA 関係者との意見交換にも積極的に参加すること、③申し込み後の引率者変更をしないことについて承諾します。

なお、旅費については下記の口座^(※)にお振込願います。

※口座は学校の公金口座または引率教師の個人口座のどちらでも構いません。

年 月 日

氏 名： _____

生年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日 年齢： _____ 歳

振込口座

銀行名		支店名	
口座番号	普通・当座		
ふりがな			
名義人			

(生徒保護者用)

参加申込書

独立行政法人 国際協力機構

九州センター 所長 殿

独立行政法人国際協力機構 九州センター主催「高校生国際協力実体験プログラム」の募集要項の内容について承諾し、同プログラムに参加を申し込みます。

年 月 日

申込者氏名 : _____

生年月日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日 年齢: _____ 歳

親権者または

保護者名 : _____ (印)

本人との続柄 : _____

【参加にあたり心配事がある方はご記入ください(健康面、アレルギー等)】

※選考には影響ありません

・アンケート集計結果（参加生徒・教員）

1 日目（生徒用） 回答者数 24 名

[自己紹介・アイスブレイク]

満足度

(人)

満 足	20
やや満足	3
やや不満	1
不 満	0

感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ ラジオ体操とか久しぶりでたのしかった。また、想像で体を動かすのはとてもおもしろくて、皆考えていることは違うんだなと思った。
- ・ アイスブレイクでは1つのお題から体でそのものを表すということをしたときにみんなそれぞれすることが違ったり、一緒だったり、それぞれの個性が出ておもしろかったです。学校紹介では最初バタバタして時間内に読むことができなかったり、早口になっていたりしたのでもう少し練習すればよかったなと思いました。
- ・ 学校新聞の発表で、相手に伝えたい内容をできるだけ簡潔にまとめて、その上での発表が大変だった。他の高校もいろいろなアイデアで新聞を作っていて、学ぶ部分がたくさんあった。
- ・ 時間が短すぎて伝えたい部分が伝えられなかったのが悔しい。夏休み期間にみんなが集まって時間をかけて作ったものだからもうちょっとちゃんと発表したかった。
- ・ リモートで、みんなの名前をほとんど覚えられなかったから。

[国際理解ワークショップ]

満足度

(人)

満 足	21
やや満足	2
やや不満	0
不 満	0

※このプログラムのみ欠席の参加者が1名いたため、アンケート回答数は23

感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 様々な視点からトンガという国を見つめて、日常の何気ない風景の中にも SDGs が関わっているということに気がついた。

- ・ 協力隊員が絵本を作っているという活動は初めて知ったし、とても内容がわかりやすく読みやすかったです。SDGsについて深く考えることができました。
- ・ 同じグループのメンバーや他校の方と意見を交換することで、今まで自分では気づかなかったことに気づきました。新たな視点で見ることができ、楽しかったです。
- ・ また新たに海外についての知識が増えたのでとても勉強になった。日常でもチャートからなにかを読み取ることは意識しているけど、同じチャートを見ても参加者の方々はそれぞれ違う意見が出てきていたりして面白かった。積極的に周りとの意見交換することの大切さを学べた。
- ・ 1つの絵本からSDGsのことに関連することが多くあって、日本がその国のような暮らしや環境の良い面をマネしていくにはどういった工夫が必要か考えたとき、上手くまとめられず発表も上手くいかなかったから悔しかったです。

[青年海外協力隊活動計画作り]

□ 満足度

(人)

満 足	22
やや満足	1
やや不満	0
不 満	0
無回答	1

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 自分たちが実施に協力隊員になったつもりで考えるっていうのがとても楽しかった。参加メンバーと一緒に話しながら考えるのがとても良かった。
- ・ 考えをみんなとすり合わせることで、時間も絞られていたことで、普段と違う考え方もでてきたりしたから良い時間だった。
- ・ 1つの行動を起こすにも、根本的なことから物事を考える必要があることを痛感した。日本の価値観で全て考えてしまいがちだけど、その国の価値観で物事をとらえることも大切だと思う。
- ・ 発展途上国だからといってどの国も同じ状況ではなく、それぞれ足りないところと十分なところがあると知り、発展途上国とひとまとめにするのではなく、ひとつひとつに興味を持とうと思った。
- ・ 4人でたくさん考えて頑張りました。バリボ村の人たちのためになるように考えられました。すごく難しくたくさん悩んだけど良い計画が作れたんじゃないかなと思いました。作っていくなかで色んなことも知れました。
- ・ 村の課題を解決するにはどういった工夫がいるのか、そして、どうしたら村人の人たちに納得してもらえるのかを考えるのが難しかったです。思ったように話し合いが進まなかったのもっと話し合っていかなければならないと思いました。

- ・ 私は青年海外協力隊に興味があったので、実際の活動の様子を詳しく知ることができ、より憧れが高まりました。国際協力と一言で言っても様々な考え方があり、奥が深いなと思いました。

[国際オンライン交流会]

□ 満足度

(人)

満 足	23
やや満足	1
やや不満	0
不 満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ お互いに質問し、交流を深めることができとても楽しかったです
- ・ 英語を使ってというのは不自由な面も多く大変だったけれど、コミュニケーションをとりあえてうれしかった。
- ・ なかなか海外の方と交流する機会はないので、すごくいい経験になりました。英語で話をするのは勇気のいることでしたが、普段はできないことなので参加できて良かったです。
- ・ 英語がわからないときがあったので、もっと英語を練習したい。

□ 今日の感想や新しく知ったこと、もっと知りたかったこと、第2日目のプログラムに期待することなど、1日目を振り返って自由に書いて下さい。

- ・ オンライン上ということで少し不安もあったけど、楽しくて盛り上がるようなプログラムがあったおかげで1日楽しみながら活動ができて良かったです。次回、いい提案ができるように班の人たちと協力して活動に取り組みたいです。
- ・ 人生で初めてこのような国際協力についてのプログラムに参加したのですが、色々なことを学び改めて気づくことができ大変有意義な時間となりました。本当はJICA九州での体験でしたが、オンラインと忘れるくらい参加した人たちと繋がることができ興味深いプログラムでした。
- ・ 限られた短い時間の中で自分たちの考えをまとめるのはとても大変でした。自分たちには思いつかなかった考えを他の学校の人たちから聞くことができ、このような考えもあるんだと学ぶことができ、視野も広がりました。
- ・ 今回自分で進んで質問する大切さを学んだので第2回ではより深い内容まで聞きたいなと思う。そして今回とても緊張して上手く話せないところもあったので反省として次回に生かしたい。
- ・ こんな近くに世界と繋がって何かを行なっている人がいるんだと実感した。外国の方々ともっとスムーズに会話ができればいいのになと思った。自分の英語力を憎む

機会になって良かった。終始ずっと楽しくて充実した1日でした。

2日目（生徒用） 回答者数 23名

[青年海外協力隊活動計画発表（動画撮影、動画視聴含む）]

満足度

(人)

満 足	20
やや満足	2
やや不満	1
不 満	0

感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ バリボ村の現状を考慮して計画を立てる中で、1つのことを解決しても他の問題が見えてくることもあり、答えを見つけるのは難しかったです。しかし、最終的には納得のいく形で計画を立てることができたと思います。
- ・ 同じ高校生が、同じバリボ村の事に関してのことでも、様々なアプローチから問題解決に向かう形がおもしろいと思った。
- ・ 班の人で知恵を出し合っていい活動計画ができて嬉しかったです。パワーポイントやどうやって話すかなど、たくさん考えて工夫できたので良かったです！他の県の人の提案を見るのは良かったです。
- ・ 7つの県の発表に対する質疑応答の準備が出来ていなかったからもう少し準備しておくべきでした。質問に対しても上手く返答ができなかったから、自分たちの発表内容を具体的に把握しておけばよかったと思いました。
- ・ハウリングや声が聞こえないため質疑応答が満足できなかった。

[振り返り]

満足度

(人)

満 足	20
やや満足	1
やや不満	1
不 満	0
未回答	1

感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 改めて色々な人の意見を聞いて、ここがよかったとか、もっとこうすればよかった

と分かって、次に生かしたいと思った。

- ・ 1位にはなれなかったけど、振り返りを聞いたり考えたりすることで視野の違いに気づいたり説明が不足していたことがわかったりと視野を広げられた。国際協力というあまり身近でないことの視野が広がって良かった。
- ・ 他の高校生の方と交流して、少しだけ自分たちの高校について知ってもらうことができたんじゃないかと思いました。
- ・ 長崎と熊本の人と話して他の県の学校ことも知れて嬉しかったです。

□ 2日間を通して、このプログラム全体の満足度は_____パーセント (%)
(人)

100%以上	12
90-99%	4
80-89%	3
79%以下	4

理由

【100%以上】

- ・ 国際協力のイメージが変わった。今回、メインで行ったバリボ村も全てが発展途上というわけではなく日本には絶対になような良さがあるなど、互いに協力し合えるということがわかった。また、国際協力といっても中心にあるのは住民の暮らしということがわかり、親しみが持てた。(100%)
- ・ 外国の方との交流や協力隊の活動計画など、プログラムを通して国際協力への理解が深まったからです。2日間の研修はとても楽しく、学校紹介の新聞づくりや活動計画の資料作りも私にとってすごく充実した時間でした。(100%)
- ・ 全ての高校と交流できて楽しかったです。自分の視野、可能性を広げることができました！(100%)
- ・ みんなでしっかり考えられて楽しかった。でもみんなと会えたらもっと良かったかな…。この経験を活かして次のこともこれからのことも頑張っていきたいです。すごくいいプログラムでした。(120%)

【90-99%】

- ・ 残りの1%は実際に会えなかったからです。(99%)
- ・ オンライン開催ということもあって盛り上がりきれないかなと思っていたけど、実際は交流できる機会もすごく多くて2日間とも充実して過ごすことができました。特に2日目のプログラムでは他県の活動計画について積極的に質問できて、たくさん交流できて楽しかったです！(90%)

【80-89%】

- ・ やはり対面で行いたかったなという気持ちもあるが、このプログラムを通して世界に目を向けるようになったと思うし、リーダーとして責任感ややりがいも感じるこ

とができていい機会になったと思う。(85%)

- ・ 2日間の内容がたくさんあっておもしろかった。自分たちが主体的に考えるのでいろんな考えが出ておもしろかった。でも、やっぱりちゃんと対面で話して仲良くなりたかったと思った。(80%)

【79% 以下】

- ・ 発表に対する質疑応答の準備があまりできておらず、答えることができていなかったから、事前に準備しておくべきでした。限られた短い時間の中で自分たちの考えをまとめ、発表することが難しく、上手く伝えられなかったからとても悔しかったです。(60%)
- ・ 改めて様々な問題に目を向けて考え、同年代の方と意見交換をすることができてとても貴重な時間になったと思う。でも、仕方のないことだけど、実際に対面で交流したかったなという気持ちも強い。(60%)
- ・ zoom になったことでコミュニケーションがほとんどとれなかったことがほんとに残念なところだった。(50%)
- ・ コロナの影響でオンラインになってしまい交流が少なかったこともあります。相手の名前も良くわからないまま終わったのでさみしく感じた。そして JICA 側から出されたものを受け身としてこなすだけなので、なんだかよくわからなかった。そして受験期間と丸かぶりだった。(40%)

□ 一番印象に残ったプログラムは何ですか。その理由を記入してください。

(人)

振り返り	7
青年海外協力隊活動計画発表	7
青年海外協力隊活動計画づくり	4
国際オンライン交流会	3
アイスブレイク	1
国際理解ワークショップ	1

【振り返り】

- ・ 他の県の人と話せて楽しかった。
- ・ 自分たちの良さもアピールできたから
- ・ 最後にたくさん話せて楽しかったです。いろんなことをおしゃべりできて良かったです。オンラインでも楽しく話せることと繋がりがもて嬉しかったです。

【青年海外協力隊活動計画発表】

- ・ 架空の村についてこんなにも一生懸命になって「どうしたらみんなにとっていい村になるのかな？」と考えて、それを発表するという経験は自分にとってとても大きかったと思うから。国際協力についてより深い理解ができたのではないと思う。
- ・ 1日目のプログラムもすごく楽しかったのですが、やはり活動計画発表ではみんな

の力を合わせて時間をかけて作成したので達成感があったからです。また、他校の発表を YouTube で視聴して質問を考えるとという試みが新鮮で印象的でした。今まで自分の事や身の回りの事しか考えたことがなかったので、全く違う場所に住む人の生活を改善することを考えたのは、世界をみるきっかけにもつながったと感じました。

【青年海外協力隊活動計画づくり】

- ・ 私は将来海外の現場で国際協力に携わりたいと思っており、今回の経験を通して自分の将来を改めて考えるきっかけになったからです。実際に自分が行ったときにはこのようにしたいと、より明確に目標を立てることができました。
- ・ 1 番時間をかけたから。最初は日本とは全く違う場所という印象だったが、住民の暮らしについて考えているうちにより親身になって考えることができるようになった。また、活動計画を立てるときも様々な壁があることを考えた上で活動計画を立てると達成感があった。

【国際オンライン交流会】

- ・ 最初は英語を聞き取れ会話できるかなど心配していましたが、お互いに質問をしていくうちに緊張もほぐれ楽しく会話ができていたのでよかったです。今まで海外の方とあまり交流したことがなかったので、この交流でもっと多くの人と交流していきたいと思った。

【アイスブレイク】

- ・ ポーズをするゲームはアメリカにホームステイした時もやったけれど、いつも盛り上がるし、それで各地の文化にもふれることができ楽しいから。今回もお題によってイメージするものが人それぞれ違って、やっぱり私は人が好きで多様性っていいなと思えました！

【国際理解ワークショップ】

- ・ 絵本で楽しく簡単にその村について知り、文化などを知ることができてよかったです。曜日ごとにその日やることが決まっていてとても詳しく書かれていてSDGsと結びつけることができました。

□ 最後に何か書きたいこと、伝えたいことなどがあれば自由に書いて下さい。

- ・ JICA 九州のプログラムに参加できてとても良い体験をすることができました。各プログラムでアドリブ力や発想力を高めることができたので良かったです。この体験を活かして、今後の生活につなげていきたいです。
- ・ 本当は8月の2日間で終わる予定が延期になって2回に分かれての実施になったのは、個人的には良かったと思いました！（とても濃い活動計画を作れたからなど…）
- ・ JICA 隊員として行きたいです！
- ・ 今回はこのような貴重な機会をつくっていただき、ありがとうございました。今後も自分の夢を実現するために頑張っていきたいと思います。

1 日目（教員用） 回答者数 7 名

1. 各プログラムの感想・意見・改善点などをご自由にご記入ください。

[自己紹介・アイスブレイク]

- ・ ラジオ体操も国際的なもので良かった。生徒たちのスイッチが入ったものと感じた。自己紹介、学校紹介は声が聞き取りにくい、見えにくかったというところが改善するところでした。「〇〇といえば」は導入として良かった。随所で国際協力・理解につながるプログラムで良かった。練られたプログラムであった。
- ・ ラジオ体操は良いアイデアだと思います。自身のオンライン授業でも気をつけている点ですが、意識的に体を動かさせると心理的に距離が近づくようです。
- ・ 学校紹介の時間をもう少し確保出来たらよかったですのではと思います。今日一日の活動の流れを示してもらえると、参加生徒も今日一日の活動が想像でき見通しを持つことができたのではと思います。
- ・ 今回行った内容では、アイスブレイクの役割をまったく果たしていませんでした。オンラインなので他県の生徒と直接会話できる場面があると良かったと思います。わずか3県10名での研修でしたので、一人一人の自己紹介や学校紹介にもっと時間を使い、その中で例えばパーソナルクイズのようなものを取り入れてやり取りをしたり、お互いの学校について質問をしあったりした方がアイスブレイクになったのではないのでしょうか。対面での実施であればちょっとした時間を利用して生徒同士の交流ができますが、オンラインでは意図的にそういう場面をつくってやる必要があるかと思います。せっかく1日を共にしながら、他県の生徒の人柄どころか名前さえもよく分からないまま終えてしまったのは大変もったいなかったと感じています。

[国際理解ワークショップ]

- ・ 隊員が作成した絵本を使ってトンガという国を知っていく活動は新鮮でおもしろかった。日本の生活とはずいぶん異なることが多く、生徒たちはそのちがいを理解して落とし込むまでの作業をととても楽しんでいるように見えた。その後のワークでは考える・伝えるのスパイラルを繰り返すことができ、学びを深められたと思う。
- ・ とても良い活動であったと思います。生徒たちもいろいろなことを考えながら大変興味深く取り組むことができていたようでした。
- ・ SDGsと絡めて活動をしていただき、SDGsを身近な課題として考えることができたと思います。もし実際のトンガの暮らしの様子が動画や写真であると、より身近に感じることはできたと思います。
- ・ 生徒へのヒントの出し方やSDGsの付箋が自分の授業にも生かせると思った。

[青年海外協力隊活動計画作り]

- ・ペルーの活動報告により、実際の青年海外協力隊について理解を深めることができた。
- ・ダイヤモンドランキングは自分も国際連合の単元や地球環境問題で使用したことがあるが、より深い活用の仕方を学べて良かった。
- ・活動に関する情報確認に始まり、体験談、情報精査、計画作成と、多くの活動を短時間で行うことで、生徒は適度なプレッシャーを受けながら作業することができ、自身が備えている潜在能力の活性化に繋がったように思う。ブレストから情報の再集結までの一連の活動を通して、多くのことを学べる良い機会であった。
- ・まだ発表そのものが終わっていないので何とも言えませんが、生徒たちは毎日放課後に集まって話し合いをしているようです。また、図書館で文献を調べている姿も見かけました。この活動は1日でやってしまうよりも、今回のように間が空いた方が探究的な活動ができて良いように思います。やはり高校生は絶対的な知識量がまだまだ不足しているので、1日で発表までさせても、説得力に欠ける中身の薄いものしか出来上がらないような気がします。

[国際オンライン交流会]

- ・英語で自己紹介や質問、自分の街を紹介する機会はないので生徒にとって貴重な機会になったと思う。楽しんで参加することができました。
- ・研修生と英語でやりとりしていたが、事前に準備していなかった内容でもきちんと交流できている姿を見て、成長を感じることができた。この交流を通して、伝わる喜びを体感できたのでこれからの生きる道でも外国語を使ったコミュニケーションにおいて大切なことは言語だけではないということをおぼろげに思える時間であった。
- ・やはり対面と比べたら足りないかなと感じました。しかし、取り組みの内容は良いと思います。
- ・留学されている方と関わる貴重な経験をありがとうございました。生徒はなんとか英語を使おうと頑張ってくれました。生徒は、少し英語が難しく、理解できなかった様子でした。

[その他]

- ・オフラインとオンラインのハイブリット型の研修は、それぞれの強みを生かせると改めて感じた。現在様々な特別活動がオフラインとオンラインのハイブリット型に切り替わっているため、今後検討の余地があると思った。
- ・私も教師として大いに参考になる手法がありました。

2日目（教員用） 回答者数7名

1. 各プログラムの感想・意見・改善点などをご自由にご記入ください。

[青年海外協力隊活動計画発表（動画撮影、動画視聴含む）]

- ・ どの高校も高校生らしい発想での活動計画でした。高校の総合的な学習の時間や教科で学んだ知識を活用したものだったと思います。
- ・ どの高校もクオリティの高い発表だったと思います。同じ村だがそれぞれの学校からのアプローチが大変興味深かった。生徒たちも課題解決能力を養うことができたと思う。
- ・ 生徒がバリボ村を救おうと、主体的に活動していた。動画に関しては、長さもちょうど良く、1時間程度でみることができ良かった。
- ・ 重視するのはプレゼンテーションなのか発想なのか、それを明確にするのが難しかったように思いました。本校は欲張りになり、両方に力点を置いたせいか、内容が盛りだくさんになり、発表が早口になってしまいました。
- ・ 「誰を対象に」という解釈の違いで各県の動画の方向性がずれていた。主催する側が「ねらい」「条件」などを何度も確認し、製作途中で手立てを打たないと方向性がずれてしまう。

[振り返り]

- ・ お互い初めて顔を合わせる者同士なので、遠慮があつてなかなか思うようには話せなかったようです。リモートなのでやむを得ないですね。対面であればもっと色々な話ができていると思います。

2. 2日間を通してこのプログラムの満足度は_____パーセント

(人)

100%以上	2
90-99%	3
80-89%	0
79%以下	2

理由：

- ・ 国際協力の意味や生徒をどうその方向へ導いていくかの指導方法が大変勉強になりました。次はこのプログラムを授業に落とすプログラムを実践していこうと思ったから。(100%)
- ・ 内容はとても充実していて、参加した高校生はとても満足しています。ただ1つだけ、昨今の状況では仕方がないことですが、高校生同士が直接、対面でふれ合える機会を設けていただきたかったと思います。(80%)

- ・ 生徒にとっては大変貴重な経験にはなったと思いますが、やはり対面でさせてやりたかったというところでマイナス 30%にしました。(70%)

3. 全体の流れ、時間配分は適切でしたか？

(人)

とても良かった	2
良かった	5
あまり良くなかった	0
良くなかった	0

理由：

【とても良かった】

- ・ ちょうど良かったように思う
- ・ 生徒達の発言の機会が思ったより多いが、時間通りに終わっていた点が良かった。

【良かった】

- ・ 盛りだくさんの内容を分刻みで対応いただいで感謝しております。準備から運営まで本当にありがとうございました。
- ・ 各学校の都合をよく調整されて負担感がなかった。
- ・ リモートですので円滑に進行できない点があったのはやむを得ないと思います。

4. 来年度の高校生国際協力実体験プログラムに向けて、改善点をご記入ください。

- ・ もう少し他校の生徒と関わりがあればもっと良いと思います。
- ・ 留学生の英語が生徒にとって難しかったため、生徒のレベルにあわせていただけると助かります。
- ・ 1日目のスケジュールが少しタイトで、もう少し休憩時間を増やしていただけると助かります。
- ・ 今年度のようにオンライン実施になることを想定して、プログラム案にオンライン開催のプランを予め載せておくことは難しいですか？
- ・ 各県の推進員の方と事前学習する際に発表活動のお題を出していただくと、全体発表当日までに様々な探求的学習に継続的に取り組むことができるので、生徒にとっても学ぶことがより多くなるのではないかと思います。
- ・ 高3が参加していることが交流会で判明しました。普通科、職業系問わず、高3は、10月は就職試験・推薦、12月は共通一次直前なので、来年からは延期したとしても配慮すべきだと思います。

5. 今後、事後学習として取り組みたいこと、生徒たちと進めていきたいことをご記入ください。

- ・ 総合的な学習の時間（2年生）でポスターセッションを実施予定なのでこの実体験

プログラムの報告ができればと考えています。

- ・ JICA に関する情報をもっと深めたいと思います。実際の活動を動画で見たり、活動されてきた方へのインタビュー等ができれば面白いと思います。
- ・ 本校の学校活動の目玉としてこのプログラムを授業に活用して次の生徒達を育てて、実践するチームを立ち上げたい。

6. JICA の開発教育支援にどのような役割を期待しますか。

- ・ 若い世代に国際協力が文化として根付くように、様々な活動（特に体験学習的要素を含む）を実践してもらえるよう期待しています。
- ・ 活動されている方のお話を生徒が聞く場を作っていたらと思います。
- ・ 授業中でのアドバイザーや生徒の活動の相談役になってもらいたい。
- ・ 高校生へのこのようなプログラムを幅広く提供いただければと思います。やはり、学校以外でのこのような学びは、生徒を大きく成長させると実感しました。

